

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



(Photo: Chinatown in New York)

《 vs チャイニーズマン 》

今回はニューヨークに住んでいた頃に一触即発(?)状態になったある中国人との話。

日本では横浜、神戸、長崎が有名だが、アメリカの大都市にも必ず存在するチャイナタウン。中国人で形成され、中華料理店や中国原産物の加工品商などが集まり商業や日常生活に中国色が強くみられる市街地区のことが、NYマンハッタンのダウンタウンにあるチャイナタウンは全米最大と言われている。

このコーナーで度々登場した自分が暮らしていたアッパー・ウエストのアパートでのごと。最上階だった4階のフロアには5つほどの部屋があり、自分の部屋の斜め向かいはずっと空き部屋だった。そこは自分の部屋とほぼ同じ3畳くらいの広さで、白人で初老だったオーナーのサムがもの置きに使用していた。

4年間のニューヨーク生活から日本に引き揚げることになる最後の1年にさしかかる頃だっただろうが、サムがその部屋を突然掃除し始めた。サムに聞くことこの部屋の住居者が決まったという。「日本人が住むのですか?」と聞く。「いや、中国人の男子学生だ」という。住み慣れたアッパー・ウエストのエリアではあまり中国人の姿を見かけたことがなかったので「珍しいなあ」と思いながらも「まあいいか」という感じで特に気にすることもなかった。

数日後の昼間、部屋のドア越しにガタガタと物音が聞こえたので何気なくドアを開けた。すると小柄でやせ細り、色白でメガネをかけたアジア系の学生風の男と目が合った。直ぐに数日前のサムとの会話を思い出して、新しく住むことになったあの中国人の男子学生だと思った。「お隣さんになるので、こちらから「ハイ」と声をかけた。すると、その男は「ハイ」と小さな声で返しただけで、無表情に搬入作業を続けた。一瞬何も言えぬ違和感を抱きながらも「まあいいか」と思い、その後は特に接触する機会もなかった。

最上階だった4階のフロアには共同バス・トイレの狭いスペースがひとつあり、4階の住民は皆そこを使用していた。天窓が付いていたので真夏になると蒸し風呂のような状態になると以前書いたが、5部屋ほどの住民とのシェアだったので時間をずらして使用すれば、特に不自由することはなかった。だが、ある日を境に「あれ?」と思う光景が見られるようになった…。この共同バス・トイレにはバスタブがひとつあり、そのまわりにビニール製のカーテンが取り付けられている、上部にシャワーが付いている。かなり老朽化したアパートで、他の住民との共同スペースだったので、日本人らしくバスタブにお湯を溜めてお風呂に浸かりうなんて気は全く起こらないほど清潔感もなかった。だが、自分がシャワーを使った後には、他の使用者のことを考えて、必ずカーテンやバスタブに付いたセッケンやシャワーの泡等も流していたし、他の人も同じ気遣いをしていたと思う。

ところが、ある日シャワーを浴びようとしてドアを開けると、黒く濁って埃や細かいゴミのようなものがたくさん浮いた水がバスタブいっぱいに溜まっていた。「汚いな、誰だよ?!」と思ったが、外出の時間が迫っていたので、とりあえず3階の共同バスを使用することにした。3階でシャワーを浴びて部屋に戻る途中に先程汚い水が溜まっていた4階のバスタブを覗くと水は引いたものの埃や細かいゴミのようなものが排水溝のまわりに散らばっていた。「誰だよ、ちゃんと掃除しとけよ…」と思いながらも、外出のためその場を後にした。だが、その後も数日に一度そんな状態が続き、バスタブが汚されたまま放置されている状況が見られた。

そんなある日、トイレに行こうと部屋の扉を開けると斜め向かいの中国人の男の部屋の扉が開いていた。一瞬その男の部屋の中が視界に入ったが、なかなかキレイにしているようだった。そして、すぐ脇の共同バス・トイレの扉を開けた。するとあの中国人の男がバスタブに溜めた水の中でモップをビチャビチャと浸していたのだ。直ぐに一連の出来事がこの中国人の男の作業だとわかった。この男が入居する前にはこんな不愉快な思いをすることは一度もなかったもので、黙って見過ごす訳にはいかず、ここはみんなが使う場所で、バスタブはモップを洗うためのものではなく、これまで度々汚しっぱなしだったこと、二度とバスタブでモップを洗わないように伝えた。そして、直ぐにバスタブをキレイに掃除するように! 男は無表情のままボソッと「OK」と返しただけだったが、自分の部屋だけキレイにして共同バスは汚れようがどうでもいいという態度は許せなかった。

正直、初対面の挨拶の時に続くその無表情の顔にもかなりムカついたが、これで二度とやらないだろうと思いついて部屋に戻った。それから3-4時間経った頃、ふとシャワーを浴びようと思いついて、共同バス・トイレに向かった。すると、あろうことか、バスタブには水気がなくなった埃や細かいゴミのようなものがこびりついたままだ。「あの中国人野郎!」と思うのも束の間、「日本人の威信にかけて!」というのは大げさかもしれないが、怒り心頭で男の部屋の扉を拳で数回ノックした。数秒後、扉が開くとあの男が顔を出した。そして、その男の背後に同じ中国人とわかるようなメガネをかけた学生風の女の姿が目に入った。そいつの彼女が友達なのだろうが、そんなことはどうでもよく「え、わかってんのか? さっき『直ぐにバスタブをキレイに掃除するように』って言ったよな!？」と口調を荒げた。

と、その時に背後に人の気配を感じた。振り返るとニコッと微笑むオーナーのサムが立っていた。結局、サムに事情を説明してサムもその場でその中国人の男に二度とバスタブでモップを洗わないことと直ぐにバスタブをキレイに掃除するように言い渡して事なきを得たが、もしあの時にサムが現れなかったら、あの中国人の男の反応によっては自分の拳がケリが入っていたかもしれない…。

勿論、個人の性格・性質の問題で、中国人全てが悪いなんてことではなく、中国人にいい人もたくさんいる。だが、少し前に騒がれた偽ガンダムや偽ドラえもんなどのニュースなどを見ると、ふとあの時の中国人の男の無表情の顔を思い出して腹が立ってしまうことがある。思わず「ちゃんとしてよ!」なんて心の中でつぶやきたくなるが、あの中国人の男子学生との一幕は楽しかったニューヨーク生活の中で最も数少ないファイティング・スピリットをかき立てられた思い出のひとつだ。